

霧島市立国分西小学校は、昭和 30 年市政施行により国分市立西小学校に昭和 50 年に国分市立国分西小学校と改称されました。

その後の市町村合併に伴い、平成 17 年度に霧島市立国分西小学校となり、今年で創立 71 周年を迎えます。

平成 21 年には児童数が 1,000 人を越えたことから、天降川小学校の開校に伴う分離を経て、R6 年度は、児童数 666 人、教職員数 55 人、通常学級 21 学級、特別支援学級 11 学級、通級指導教室「ことばの教室」、 「さくらルーム」の合計 34 学級となっています。

校章は、昭和 32 年に制定され、「花は霧島、煙草は国分」とおはら節の歌詞にあるとおり、煙草作りの盛んな土地にある学校として、三枚の煙草の葉ががっちり組み合い、躍進の形象の上に西の文字が図案化されています。

当校は、現在、広瀬、福島の二つの地区が校区となっていますが、三枚の葉はこれに、今は旧校区となった松木地区を加えたものとなっています。

本校は、教育目標に、「豊かな感性と輝く個性で未来を生き抜く子どもを育てる」を掲げています。「豊かな感性」として、「物事を深く感じる心」を高め、「輝く個性」として、一人ひとりの子どもたちそれぞれのよさや持ち味を十分に発揮させ、そして将来の予測が困難で不透明なこの時代をしっかりと生き抜くためのたくましい心と体、（強い意志、主体性、創造性、元気、健康…）を育む教育を推進していきます。

また、目指す児童の姿を「自ら学び、よく考える子ども」「礼儀正しく、思いやりのある子ども」「心身を鍛え、粘り強い子ども」とし、分かる・できる喜びのある授業実践、違いを認め合い支え合える集団作り、教科体育・健康や食育の充実等を通じ、知・徳・体の調和のとれた国分西小の児童の育成に向けて取り組んでいきます。

そしてそれら活動の中で、「どうすることがその子にとって最善か」を常に考え、全職員が一丸となり、精一杯取り組んでいきます。

第 26 代校長 中村 英次